



県内首長インタビュー④9

狭山市 小谷野 剛 市長 (44歳)



「次世代に素晴らしい狭山市を引き継ぐ」ことを使命とし、日々万進する狭山市史上最年少の小谷野市長。

狭山市は昭和29年に、入間川町、入間村、堀兼村、奥富村、柏原村、水富村の1町5か村の合併により県内15番めの市として誕生し、今年で62年目を迎えました。「狭山」の由来は、「林(山)に挟まれた土地」を意味していると言われるように、武蔵野台地西部に散在していた雑木林に囲まれた自然豊かな土地を意味し、現在も豊かな自然と共存しています。

市域を西武鉄道の2路線(西武池袋線・西武新宿線)が通り、都心からも約1時間という便利な環境にあるため、昭和50年代には大型団地が相次いで建設され、東京のベッドタウンとしても発展してきました。

■豊かな川と緑に囲まれたまち

狭山市には荒川水系の一級河川で、荒川の支流としては最長の「入間川」が流れており、まちの地名としても使用されるなど、市のシンボリックな存在となっています。

入間川は、平成24年度から埼玉県が進めてきた「川のまるごと再生プロジェクト」により、アユが遡上できる魚道や遊歩道などが整備され、河川敷は市民が集い、学び、楽しめる憩いの場となっています。

また、武蔵野の面影を残す自



市を貫流する入間川とともに歴史を刻んできた狭山市。遠くに富士山を望む入間川は豊かな水を育み、四季の移り変わりを感じさせてくれます。

然も狭山市の大きな魅力です。市は公園整備も積極的で自然そのままの森林と整備された「こども動物園」や「花菖蒲園」、「都市緑化植物園」などの公共施設が点在する総面積53.8haの広大な「智光山公園」、芝生と桜が見事な「狭山稲荷山公園」、自然林に囲まれた「堀兼・上赤坂公園」など、市内には23か所の都市公園をはじめ、180以上の公園が点在しています。木々の緑や季節の花々で彩られる公園は、スポーツやレジャーなどを楽しむ市民の憩いの場としてはもちろんですが、イベント会場や災害時の避難場所などにもなっています。

■市を代表するイベントと特産品

関東三大七夕まつりのひとつとしても有名な「狭山市入間川七夕まつり」は、江戸時代から続く由緒ある夏祭りで、仙台の七夕まつりに次ぐ歴史を誇ります。当時は夜露で墨をすって家々の軒下に短冊を下げ、まつりが終わると入間川に流したそうです。

現在の七夕まつりは、狭山市駅前から七夕通りを中心とした約2kmの沿道が百数十本のきらびやかな七夕飾りで埋め尽くされます。さらに夜には納涼花火大会が催され、毎年13万人を超える見物客が訪れる市の一大イベントとなっています。

また、狭山市といえば、七夕まつりと並び、日本三大茶のひとつ「狭山茶」を思い浮かべる人も多いと思います。「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとど



8月の第1土・日曜日に開催される「狭山市入間川七夕まつり」。2kmにわたり百数十本の七夕飾りで埋め尽くされる光景は圧巻です。

コクと濃厚な味わいが特徴の狭山茶は、火入れや手もみなど、独特な手法が用いられます。



■狭山の未来を守る

約60年前、人口約3万の田園都市として誕生した狭山市は、現在は15万人を超える住宅・工業都市として発展してきました。しかし、高度成長期に転入した市民の高齢化を迎えた今、少子高齢化や人口減少の問題に直面しています。また、同時期に整備された公共施設やインフラが老朽化するなど、まちの魅力や活力を持続していくことが最重要課題のひとつとなっています。

狭山市は28年度から、市の基本計画である

「第4次総合計画」と、人口減少への対応と地方創生に向けた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をスタートさせました。狭山市の将来を見据えた「まち・ひと・しごと」それぞれの観点から、さまざまな事業が推進されます。

特に若い世代の定住促進のために、わかりやすい漫画を使ったPRや、東京からの玄関

口である入曽駅周辺の整備に向けて準備が進められています。また、未来を担う子どもたちの学力向上・定着のために、中学生を対象とした学習支援事業も積極的に推進されています。さらに、まちの活力の源である産業の活性化に向けて、産業系の土地利用転換を進めるとともに、雇用の質の改善を促すための助成制度もスタートしました。

狭山市史上 最年少の42歳で市長に就任し、今年2年目を迎えた小谷野剛市長は、12年間の市議時代から現在も「情熱一番」を合言葉に、「狭山の未来を守る！」と訴え続けています。狭山に生まれ、育ち、そして生涯を健康で過ごせるまちづくりを目指しています。

めさす」とうたわれるように、狭山茶はコクのある濃厚な味わいが特徴です。他の産地より寒冷なことから、茶葉は厚く、また、「狭山火入れ」という独特の仕上げ技術が、狭山茶のうま味とコクを生み出して根強い人気があります。

■県内屈指の工業都市 さやま

狭山市は県内屈指の工業都市でもありません。昭和37～40年にかけて狭山市と川越市に、189.6万㎡という規模（当時の日本一の規模）の川越狭山工業団地が造成され、自動車製造業をはじめとする企業が操業を開始しました。また昭和48年には狭山工業団地が完成し、両工業団地の整備により市の工業は飛躍的に発展しました。

現在の市内事業所は約5千カ所で7万人以上が従事していますが、このうち製造業は約450事業所で、約2万人が従事しており、市内の産業別従業員数の約3割を占めています。

狭山市の製造品出荷額等は県内で常に上位に位置し、優れた技術を持つ世界のトップ企業が多く立地するなど、県内有数の工業都市となっています。

狭山市は県内でも災害が少ない県西部地域に位置し、温暖な気候、強固な地盤など、安全で安心して企業活動ができる条件が揃っています。また、圏央道による利便性と物流効率の大幅な向上にも大きな期待ができることから、新たな企業誘致を積極的に展開しています。



平成27年に「狭山工業団地」の2地区と西地区の拡張と土地区画整理事業実施が決定し、今後の産業の強固な基盤と雇用の促進が期待されています。

狭山市の概要

人口(H28年1月1日 一住民基本台帳一)	153,738人
世帯数(同上)	66,803世帯
平均年齢(H28年埼玉県(丁)字別人口調査)	47.0歳
生産年齢人口比率(同上)	60.5%
面積(H27年全国都道府県市町村別面積調)	48.99km ²
名目市内総生産(H25年度市町村民経済計算)	5,019億2,200万円
製造品出荷額等(H26年工業統計)	9,343億4,443万円
事業所数(H26年経済センサス)	4,871事業所